

ナンテン

22


なまへのゆらい

なんてんは、メギ科のつねにみどり色のひくい木です。... ちなみに、ナンテンともし火の「ともし火」は、ナンテンのみが「(ともし火)」のように赤く、ナンテン竹の「竹」は株立ちが竹に似ているからこう呼ばれるようになったそう。

ナンテンは、つゆ時から夏にかけて、黄色いかぶんが目立つ小さな白い花を咲かせます。このかぶんはこんちゅうにより運ばれます。秋が近づくにつれて次第にこうようする葉も美しく、冬になると、ナンテンの一番の特徴でもある真っ赤な実を付けます。

- ナンテンの実はせきどめこうかのたかいなまぐすりとしてふるくからりようされている
- ハチに刺された時は葉のしるをしよう
- 筋肉痛にもこうかあり



<h1>ナンテン</h1>		和名	南天		<h1>22</h1>
		別名			
分類	科(APG分類)	メギ科		属	ナンテン属
	科(旧分類)			属	
	科(旧分類)			属	
名前の由来	<ul style="list-style-type: none"> 中国では古来「南天燭」「南天竹」と呼ばれた「南天燭」とは実が「燭(ともし火)」のように赤く様子から。 「南天竹」株立ち、葉の様子が竹に似ていることから。 				
樹木の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 茨城健県以西、四国、九州に分布する常緑低木。山地に自生するものもあるが、本来の野生か疑問で、多くは庭木として栽培される。 花は両性花で、花期は5～6月。大型の円錐花序を枝先に出し、白い花を多数つける。花被片は3個ずつ輪状に多数並び、内側のものほど大きく、花弁と萼片の区別は明らかでない。 雄しべはあ6個、葯は縦に裂ける。雌しべは1個。 果実は液果で、径6～7mmの球形。10～11月に赤く熟す。種子はほぼ球形で径5～6mm。 樹皮は褐色で、縦の溝がある。 葉が互生し、ふつう3回奇数羽状複葉。小葉は披針形、表面は濃緑色で光沢がある。小葉の縁は全縁。 			 	
用途・その他	<ul style="list-style-type: none"> 縁起木として庭木に植えられる。 「難転(難を転じて福となす)」 ナンテンの実は、咳止め効果の高い生薬として古くから利用されている。 生の葉は殺菌作用があるとされ、赤飯の上におく習慣がある。 ハチに刺された時には、葉の汁を外用 生の根は、リュウマチ、筋肉痛に効果あり。 			